

日本宇宙少年団水沢Z分団の活動

URL: <https://zmizusawa.amebaownd.com/>



2019年7月14日現在での状況

分団長: 佐々木 孝

副分団長: 亀谷 収、関向正俊

リーダー: 約10名

情報連絡リーダー兼事務局: 高橋 弓

団員数: 45名 小学1年～高校生1年

結団日: 1993年7月17日

結団してから26年を迎えました！

- ・6月12日に水沢Z分団は、岩手県青少年育成県民会議表彰を受けました。
- ・地元奥州市のサポートをいただきながら、岩手県奥州市水沢にある国立天文台水沢VLBI観測所や奥州宇宙遊学館を主な活動場所として活動中です。

ここ1年(+アルファ)のこれまでの活動

2015年2月21日だいち2号のレーダーで「Z」を作成

2018年8月4日第4回定例活動「火星の模様を見よう」

8月18日特別活動「いわて銀河フェスタ2018参加」

国立天文台水沢VLBI観測所と奥州宇宙遊学館で行われた特別公開に参加し、天の川銀河の模型を見学者に作ってもらいました。100名を超える方が天の川銀河模型を持ち帰りました。7月に作った水ロケットの打ち上げもしました。

9月30日第5回定例活動「金星を観察しよう」台風通過のため中止

10月21日第6回定例活動「液状化現象を観察しよう」

11月18日第7回定例活動「はやぶさ2最新情報！」

はやぶさ2に関わっている松本リーダーによる最新情報の話を聞きました。はやぶさ2の模型も作りました。

12月1日第8回定例活動「牛乳パックで船を作ろう」

2019年1月13日第9回定例活動「プログラム『はやぶさ2』を動かそう」

電子制御できるように改造した電車のおもちゃに『はやぶさ2』の模型を取り付け、プログラムの部品に印刷されたバーコードをパソコンで読み取って動かす実験でした。及川徹リーダーより説明の後、二人一組で、チャレンジしました。なかなか思った動きをしないので、プログラミングの難しさと面白さを団員たちは感じ取っていました。

3月3日第10回定例活動「エアサーフグライダーを飛ばそう」、閉

講式 及川徹リーダーより滞空時間の長いエアサーフグライダーについて紙飛行機との違いや、飛び続けられる理由を学んだあと、はさみなどを使って団員たちは作りました。飛ばし方の練習をしたあと、体育館で滞空時間の競技をしました。もっとも上手な団員は、コツをつかんで、何分間も飛ばすことができました。

5月18日総会、開講式、2019年度第1回定例活動「ブラックホール

の不思議」ちょうど4月に国立天文台水沢VLBI観測所の研究者を中心として世界中の研究者協力してM87中心のブラックホールの画像を撮ることに成功しました。そこで、ブラックホールの不思議について、亀谷副分団長と共に勉強し、1000兆分の一の大きさのブラックホールの模型を団員一人ひとりが作成しました。

6月8日第2回定例活動「月の観察と月の満ち欠けの不思議」国立

天文台水沢の口径35cm観望用望遠鏡で天体観察を順番に進めました。月を観察した団員は、クレーターまではっきり見ることができ興奮していました。「月のクレーターがはっきり見えた！」「月のでこぼこがみえた。」と感想を話していました。最後に酒井栄リーダーが製作した月の満ち欠け体験セットを使って月の満ち欠けについて学びました。

7月7日第3回定例活動「ペットボトルで水ロケットを作る」

水沢公園を会場に70mの距離の定点競技を行いました。YACの「巧の心」を感じ取ることを念頭に、団員が作った水ロケットで2回の本番の前に何回か試験をしてもらい、水ロケット本体や打ち上げ方を改良してもらいました。団員は、毎回各自色々と考えながら打ち上げていました。1日ご家族の方の協力ももらいながら、楽しみました。本番前の試行の重要性が感じられた回でした。

今後の予定

8月3日(土)第4回定例活動「夏の星空散歩の仕方」

8月24日(土)特別活動「いわて銀河フェスタ2019参加」

以降、ほぼ1ヶ月に1回の割合で活動の予定

